

**新型コロナウイルス対応緊急支援助成  
事業計画**

申請事業名(主)	子ども若者応援プログラム推進事業/神奈川
申請事業名(副) <small>*任意</small>	笑顔と力を引き出す参加体験型事業の展開

入力数 主 20 字 副 19 字

申請資金分配団体名	特定非営利活動法人神奈川子ども未来ファンド
-----------	-----------------------

休眠預金事業への 採択/申請歴	「 2019年度資金分配団体に採 択	「 2019年度実行団体に採択	「 2020年度資金分配団体 (通常枠) に申請検討中	「 なし
	「 第1期コロナウイルス対応 緊急助成に複数事業で申請			

**優先的に解決すべき社会の諸課題**

領域	分野
☑ 1) 子ども及び若者の支援に係る活動	☑ 1)-①経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子供の支援
	☑ 1)-②日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援
	☑ 1)-③社会的課題の解決を担う若者の能力開発支援
☐ 2) 日常生活又は社会生活を営む上での困難を有する者の支援 に係る活動	☐ 2)-④働くことが困難な人への支援
	☐ 2)-⑤社会的孤立や差別の解消に向けた支援O14:AA18
☐ 3) 地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況 に直面している地域の支援に係る活動	☐ 3)-⑥地域の働く場づくりの支援
	☐ 3)-⑦安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援

上記以外 その他の解決すべき社会の課題	☑ ひとり親家庭や外国籍の親子など、コロナ禍のもとで支援が必要と思われる情報弱者への支援
------------------------	--

入力数 42 字

実施時期	2022年 2月 ~ 2023年 3月	事業 対象地域	全国 ☐ 特定地域 ☑ (神奈川県)	事業対象者： (事業で直接介 入する対象者 と、その他最終 受益者を含む)	子ども食堂や不登校・ひきこもり等の子ども・若 者の居場所事業などの利用者、子育てをしている 人、子ども・若者を支えている人	事業 対象者人 数	200人
------	---------------------	------------	-----------------------	---	---	-----------------	------

**I. 団体の社会的役割**

<b>(1)申請団体の目的</b>
個人、企業、団体から多様な寄付を募り、子ども・若者・子育てに関わる人を支える民間非営利組織の財務基盤の確立を目指した助成支援を行うとともに、そうした活動に理解と共感を広げる。また、思いをつなぎ、子どもたちが生きていることに誇りと喜びを有する地域社会をつくる。
<b>(2)申請団体の概要・事業内容等</b>
神奈川の子育ち・子育てを社会で支えるための市民基金。認定NPO法人(2007年4月認定)。事業は次のとおり。 ・神奈川県内の子ども・若者や子育てに関わるNPOへの資金助成・運営支援 ・子ども・若者の育ちを県内の地域で支えるための寄付プログラムの開発・実施 ・県内の子ども・若者や子育てを支える居場所に関する情報提供 ・子ども・若者の育ちを県内の地域で支えるためのイベント開催 ・子ども・若者と子育てを支えるための普及啓発

入力数 (1) 130 字 (2) 214 字

**II. 事業の背景・社会課題**

<b>新型コロナウイルス感染症により深刻化した社会課題</b>
子どもの居場所事業は、安心して過ごせる時間や場所、学習支援、食事の提供など重要な役割を担うが、コロナ禍による制約を余儀なくされ、子どもたちのストレスは増している。また、オンライン授業の長期化や在宅勤務の常態化、行動の制限などが人間関係の希薄化や体調不良、家庭内ストレスをもたらし、勤務時間短縮、雇い止めなどがひとり親家庭の生活を直撃した。 こうした中、当法人は、JANPIAの新型コロナウイルス対応支援助成の資金分配団体として神奈川の6実行団体の事業を推進した。 その結果、様々な課題や気づき、成果を確認した。例えば、オンライン環境を整えるだけでは不登校児の参加を促すことが難しかったり、スタッフが感染防護に配慮しつつ救命法を実施する難しさなどの現場の課題が見えた。 一方、引きこもりの若者が農作業やカフェの運営に従事した結果、就職に繋がったり、人と話せるようになった事例は顕著な成果例である。これは一定の役割を果たせた体験が達成感や自信につながったもので、収穫の喜びや開放的な環境、温かな人間関係も寄与したと考えられる。農作業の参加者の6割に行動変容が認められたことなど、コロナ禍で体験の機会が減る中、こうした取組みは効果的であった。また、農地等の開放的な環境の活用は感染症対応としても有益であると思われる。 先の助成においては、子ども支援の取組みの多様性を踏まえ様々な事業を推進した。しかし、ウイズコロナのもとでの新たな助成については、この1年間の課題と成果を踏まえ、目指す方向を重点化し、より具体的かつ明確に示すとともに、取組みの一層の見える化や連携の強化を図る必要があると考えている。具体的には、体験プログラムを取り入れた子ども若者支援の推進とPO事業の強化である。 資金分配団体の任を通じて当法人も大きく成長することができた。誰一人取り残さない社会づくりに向けさらに邁進したい。

入力数 800 字

### III.申請事業

<b>(1)申請事業の概要</b>
<p>過年度資金分配団体として6実行団体の取組みから得た気づきや成果とコロナ禍で減った体験機会へのニーズに対応し、個々の背景に配慮した参加体験型の取組みを推進する。事業実施に当たっては、変化のスピードに対応できるようカウンセラー、ソーシャルワーカー、中小企業診断士等の専門家を積極的に派遣しスタッフのスキルアップを図ると共に、当事者、家族、支援者も含めて丁寧に支援する体制をつくる。更にこれらの成果の普及や連携の強化を図るためにシンポジウムなどを行う。</p> <p>実行団体の募集に当たっては、自団体完結型の取組み、効果的に展開するための地域連携など、実施可能で事業効果を高める取組みの提案を求める。</p>

入力数 293 字

<b>(2)活動(資金支援)(実行団体の活動想定)</b>	<b>時期</b>
<p>・体験プログラムを取り入れた子ども若者支援（農作業や店舗運営等のインターンシップ型事業、体験学習プログラムの展開等）の実施と普及</p> <p>※必要な環境整備、事業協力団体等との連携体制構築の取組みを含む。</p>	・2022年4月～2023年3月

<b>(3)活動(資金分配団体による伴走支援)</b>	<b>時期</b>
<p>・事業の実施状況・取組み事例の共有に資する団体間の交流と情報公開等</p> <p>・実行団体の取組みの普及・発展と連携促進のためのシンポジウムの開催と大規模イベントへの出展等</p> <p>・専門家等（カウンセラー、ソーシャルワーカー、中小企業診断士など）の派遣と研修の実施等</p>	<p>・2022年4月～2023年3月</p> <p>・2022年4月～2023年3月</p> <p>・2022年4月～2023年3月</p>

<b>(4)今回の事業実行を通じた目標</b>	<b>実施・到達状況の目安とする指標</b>	<b>把握方法</b>	<b>目標値/目標状態</b>	<b>目標達成時期</b>
<p>・体験プログラムを取り入れた子ども若者支援の実施と定着を図り、参加者の行動変容を実現する。</p> <p>・モデル事例を普及する。</p> <p>・効果的な展開と連携体制の構築に向けた実行団体間の交流と情報交換を促進する。</p> <p>・参加する子ども若者の状況が、コロナ前に近づくようサポート支援が充実する。</p>	<p>・参加者数、実施回(日)数</p> <p>・実施プログラム数</p> <p>・行動変容者の数とその状況</p> <p>・普及に向けた情報発信の状況</p> <p>・体験プログラムのネットワーク化</p> <p>・専門家の派遣回数</p>	<p>・参加者数、実施回数等のカウント</p> <p>・実施プログラム数のカウント</p> <p>・アンケートから見える行動変容のエピソード</p> <p>・HP等による発信や視察受入等の状況</p> <p>・PO事業の実施</p> <p>・専門家派遣の回数のカウント</p>	<p>・200人/400回(日)</p> <p>・7プログラム以上</p> <p>・参加者の5割に行動変容を認める</p> <p>・エピソード事例が各団体1つ以上で</p> <p>きる・体験プログラムがネットワーク化している・専門家の派遣により個別の対応が強化される</p>	・2023年3月

<b>(5)事業実施後(1年後)以降に目標とする状態</b>
<p>神奈川県内で実行団体を中心とした7つの地域に、新型コロナによる変化のスピードに対応し、かつ家庭や子ども・若者が安心して過ごせる参加体験型事業を行う居場所が誕生している。その結果、個々の背景に配慮した子ども若者支援事業が充実発展している。</p> <p>また、これらの取組みが連携しより効果的な事業のあり方や、利用者の背景など個々の状況に対応する知見の蓄積が進み、これらを通じて利用者の行動変容が促進されている。</p>

入力数 200 字

### IV.実行団体の募集

<b>(1)採択予定実行団体数</b>	7団体程度	<b>(2)1実行団体当たり助成金額</b>	300万円～600万円
<b>(3)申請数確保に向けた工夫</b>	<p>内 容：実行団体の有する知識経験や地域の資源、環境を生かした多様な体験プログラムの取組みが提案できるようにする。</p> <p>ニーズ：コロナ禍で体験の機会が減っている中、当法人の助成団体からの報告により、体験プログラムの有効性と事業の継続発展のための助成金ニーズがあることを確認している。団体の取組みを工夫することで様々なプログラムを生み出すことができると考えられ、本助成金はその契機となる。</p> <p>周 知：当法人のホームページ、ポータルサイト「こどもの未来応援ネット」、役員等を通じた周知のほか、新聞各紙へのプレスリリース、神奈川県、市町村及び県内の市民活動センター等への広報協力要請を行う。また、事前照会への丁寧な対応を図る。</p>		
<b>(4)予定する審査方法(審査スケジュール、審査構成、留意点等)</b>	<p>審 査 員：外部有識者5名(当法人の助成選考委員：地元企業経営者、NPOの運営等の専門家、子ども若者支援の専門家、弁護士、労働問題の専門家)</p> <p>スケジュール：実行団体の公募 12月～2月中旬</p> <p>審査選考 2月末</p> <p>決定(理事会) 3月初旬</p>		

### V.事業実施体制

<b>(1)メンバー構成と各メンバーの役割</b>	
<b>(2)他団体との連携体制</b>	<p>・採択事業に応じた連携体制をとる。(市民活動センターや自治体、専門機関、地域のNPOなど)</p> <p>・活動団体と支援企業とのマッチング等を目的に神奈川県と協働設置し当法人が運営する「つなぐ支える相談窓口」及びポータルサイト「こどもの未来応援ネット」を適宜活用する。</p>
<b>(3)想定されるリスクと管理体制</b>	<p>コロナウイルス感染症：実行団体に対し、感染防止対策の徹底を求める。(三密回避、マスク着用、手洗い、消毒の徹底など。契約時の確認事項とする)</p> <p>通常の連絡調整は通信手段を用いて行う。</p> <p>助 成 金 の 管 理：実行団体の執行状況帳簿等により契約期間の途中で調査する。</p> <p>当ファンドにおいても、他の経費同様毎月確認する。</p>

VI.関連する主な実績

(1)休眠預金以外の助成・補助金活用の有無				
①コロナウイルス感染症に係る事業				
本申請事業について、コロナウイルス感染症に係る助成金や寄付等を受け助成金等を分配している(予定も含む)	有 <input type="checkbox"/>	無 <input type="checkbox"/>	有の場合 その詳細	
本申請事業について、国又は地方公共団体から補助金又は貸付金（ふるさと納税を財源とする資金提供を含む）を受けていない。	無 <input type="checkbox"/>	※有の場合、選定の対象外となります（公募要領：助成方針参照）		
本申請事業以外の事業について、コロナウイルス感染症に係る助成金や寄付等を受け助成金等を分配している(予定も含む)	有 <input type="checkbox"/>	無 <input type="checkbox"/>	有の場合 その詳細	
②その他、助成金等の分配の実績				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・2004年度から2021年度までの18年間に延べ126団体へ総額3,900万円を助成（2021年度7団体115万円、2015年度は休止）</li> <li>・上記のほか、JANPIAの2020年度新型コロナウイルス対応支援助成の資金分配団体として6団体に1,105万円を助成</li> </ul>				
(2)申請事業に関する調査研究、連携、マッチング、伴走支援の実績、事業事例等の実績				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・助成団体への聞き取り調査や助言の実施 ・行政等との情報交換や意見交換の実施（子ども若者支援・NPO活動支援、いじめストップの地域づくり、SDGs施策の推進など）</li> <li>・子どもたちのSOSを如何に受け止めるかを考えるセミナーを毎年3回シリーズで開催（いじめ、貧困、児童虐待防止の3テーマ、講師は各分野の実践者や研究者）</li> <li>・神奈川県との協働事業「子ども支援活動地域サポート推進事業」を実施（2019年度～2021年度）</li> <li>・上記協働事業の一環として「つなぐ支える相談窓口」及びポータルサイト「こどものみらい応援ネット」を設置運用し、活動団体と企業等のマッチングを支援</li> <li>・経済団体での講演会開催への協力等（神奈川経済同友会/2020いじめストップ、2021子どもたちに食糧支援を 他）</li> <li>・地域の行政、企業、団体と連携し、「いじめストップ！」ピンクシャツデーキャンペーンを神奈川県内で推進（2018年～）</li> </ul>				